

番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	特に問題となる地域や環境	備考
103	侵入警戒種	オモダカ	ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatheriana</i>			貸菜養水域での生育も可能。同じオモダカ科をはじめ、多くの水生植物への影響が危惧される。また、アクアリウムで用いられる種であり、放逐されるリスクがあることも留意する必要がある。
104	侵入警戒種	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		平野部。侵入すれば荒地、河川敷	高崎問屋前駅構内で逸出が確認されたが、保線作業により除去され、萌芽は除草剤により枯死した。ただし、街路樹等からの逸出のリスクは南部平野部で高い。
105	侵入警戒種	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora</i> (L. grandiflora ssp. grandiflora)	○		琵琶湖などで蔓延し、問題になっている。ナガエツルノゲイトウほど切迫度はないが、侵入すると希少種を含む在来種に甚大な影響を与えるおそれがある。
106	侵入警戒種	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	○	水域	侵入が報告された府県ではいずれも甚大な生態系被害と灌漑施設の被害を出している。すでに関東地方でも千葉県に侵入しており、本県への移入の可能性はある。
107	侵入警戒種	ハエドクソウ	ハビコロハコベ(グロッシステイグマ)	<i>Glossostigma elatinoides</i>		溜池、池沼や水田:アクアリウムで用いられる植物のため、どこに入ってもおかない	いったん侵入すると、小型の株が密生し、駆除困難。アクアリウムで多用される種であり、同様な用途をもつ水草が近年県内で相次いで報告されており、本種も野外放逐が考えられる。
108	侵入警戒種	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>			すでに渡良瀬遊水地に侵入している。猛毒であり、誤食による重篤な中毒が懸念される。